

## 思いやりの心

和歌山県 智辯学園和歌山小学校

6年 吉川 優

思いやりの心は、私たちをおだやかにしてくれる大切な存在です。

ある日ショッピングセンターのレジで待っているとき、1才くらいの女の子が急に泣き出しましたが、そのときは、たまたまたくさんの人が列に並んでおり、お母さんもどうしようもなくその場で女の子をだいてあやしていました。そのお母さんは、とても申し訳なさそうに私たちに対して頭を小さく下げていました。

そんな中、ある老夫婦の方が、そのお母さんに対し、

「可愛いね。」

と言いました。そしたら、周りの人たちはみんなだんだんと笑顔になっていき、みんながとてもやさしそうな目で女の子を見ていました。そのとき、私は心が温かくなり、自然と心の中でかわいいなと思っていました。

一人の人の発言で、周りの人たちの感じ方やとらえ方が一気にかわり、さっきまで少しピリピリしていた空気が一気に解き放たれ、おだやかな空気が流れこみました。このたったひとことを放つだけでも、かなりの勇気が必要でありながら、このひとことを言った老夫婦の方は、その場で「小さな親切」を作っていました。

たったひとこと、勇気を出して「小さな親切」を作り、一気に空気をかえた老夫婦のように、日々の心がけで自分も老夫婦のような方になりたいと切実に感じました。

このように感じている反面、人を傷つけてしまうこともあります。ある日、私は友達とケンカしてしまいました。そのとき、私は友達に対して、謝ろうという気持ちにはなれませんでした。しかし、友達は、すぐに謝ってくれました。私は素直に謝れなかった自分が、むなしく、情けなく、憎らしい気持ちになり、友達に対しても申し訳ない気持ちでいっぱいになり、泣きくずれそうになりました。

そのあとすぐに謝ったものの、何日かは、友達と顔をあわせるたび自分が憎らしく、情けない気持ちになりました。自分があ那时候、どれだけひどいことを言っている、素直に謝ってくれた友達に対し、自分が発した言葉が憎らしくてしかたがありません。

あ那时候、自分がひどいことを言わなければ、すぐに謝っていたら、との後かいが苦痛でしかたがないほど、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。でも、あ那时候すぐに謝ってくれた友達は、周りの人々からすると、ありのように小さな思いやりかもしれないけれど、自分にとっては大きな思いやりで、ささいな親切です。

これからは、この気持ちを忘れず、自分が周りの人々にあたえてもらった「小さな親切」、そして、「思いやりの心」を忘れず、一人の人として、周りの人に少しでも「小さな親切」をできる人間になりたいです。そして、あ那时候の老夫婦のような立派な人間になろうと思い、行動に移し、実行していこうと思いました。